

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム彩寿 ユニットふく寿草	評価実施年月日	平成21年5月10日
評価実施構成員氏名	安孫子貴志 貞野 美佳 中村 麻実	後藤 淑江 須藤ひとみ 森崎 法子	木内 英生 佐藤 孝祐 渡邊真紀子
記録者氏名	安孫子貴志	記録年月日	平成21年5月27日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>①その人らしい自由な暮らしの中で、明るく豊かな毎日を過ごせるホームを提供します。②ご家族に安心と信頼を、そして地域と共に歩むホームを目指します。③彩寿のスタッフは出会いに感謝し、ホームで働く誇りと喜びを持って日々まい進します。以上の理念を作り上げている。</p>	○	<p>左記の理念が単に言葉だけで終わってしまわぬよう随時職員に対してその内容について周知を図っていくようにしていきたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>上記理念について日々実践と達成に向けて努力している。</p>	○	<p>依然として理念が単なる言葉としての認識しかない職員が多いのでその意義や向かうべき方向など具体的に管理者等が示し、達成に向け努力を促していきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族への定期的な連絡、町内会等の方々を集めての会議を開催し、コミュニケーションをとり理解していただくよう努力している。</p>	○	<p>地域密着型サービスとして町内会を含めた地域に今まで以上に密着すなわち関係を持つことができるよう働きかけていくこと。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>挨拶で声を掛け合うなど、気軽に立ち寄っていただけるよう雰囲気作りには努めているが、現実的に日常的な付き合いができていないと言っている。</p>	○	<p>隣近所の方々にホームへの来所を希望してもなかなか叶わないというのが実情だと考える。従っていかにホーム側から隣近所の方々への意図的なかかわりを持つことができるかということが課題であり、その為の具体的な方法について事業所全体で検討し実践していきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>開設後つい最近になってようやく町内の役員会でホームの説明会を実施することが出来た。会報についても定期的に届けていただけるようになった。町内会主催の行事にはこれまで参加できていない。</p>	○	<p>役員会などの町内会での活動への積極的な参加と、町内会主催の行事等への入居者の参加。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議等でホームが地域に貢献できること、協力できることを確認させていただいている。現在のところは具体的な取り組みはない。</p>	○	<p>地元町内会とのやり取りの中で、ホームが具体的に貢献できることを模索していき実現を図っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	会議等で全職員に対し自己評価を実施する意義について説明し、とりあえず理解を得ているが、各項目については理解が出来ていないところがある。	○	各項目について説明し理解を促していく必要がある。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者の普段の過ごし方、又はサービス提供の具体例、そして提供上の苦情などホーム内でのことを随時説明し、状況を理解していただくと共に率直なご意見を頂戴し、日々のサービス提供に生かしている。	○	会議の内容が適切に公開されていないため、何らかの方法でホームに来所される方々にお知らせしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	入居者又はご家族との間における問題点についてはその都度市町村窓口担当者に連絡を取り、速やかな問題可決を図るよう努めている。	○	今後も同様に関係を継続していきたいと考えている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学習する機会は事業所として確保できていない。当該制度については既に利用している方がいらっしゃる。	○	事例が発生した時点で職員に対して資料、又は学習会等の機会を設けていき理解を深めていくよう促していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関して学ぶ機会はまだ一部の職員しかとれていない。	○	研修会の参加を含め、ホーム内での学習会の機会設定も考えていきたい。現場において虐待がなく職員が互いにチェックする意識を持ってサービス提供に当るよう伝えているし、今後も継続していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書等にそって懇切丁寧に説明を行い、不明な点は遠慮なく確認していただくよう、その都度伝えている。	○	左記について継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者からの苦情、不満について職員に公開している他、運営推進会議等の機会において公表もしている。また単なる公表で終わらせないよう、管理者が把握し管理・監督に努めている。	○	更なるサービスの質の向上へ向けて事業所全体で努力していきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態の変化、暮らしぶりの変化については、その都度家族に連絡・報告をしている。	○	これまで行っているその都度の連絡とあわせ、定期的な文書などでの連絡を行っていくことも検討している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族との情報交換の際に運営上の意見について随時伝えていただくよう、お願いしており、その事を入居者へのサービス提供に反映させている。また職員には口頭又は文書などで公表し周知を図るよう努めている。	○	管理者はご家族からの意見、苦情などを伝えやすい環境づくりに励む。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や打合せのみならず、各スタッフに対して仕事上の意見、提案について聞く機会を設けており、実行可能なことについては随時進めている。	○	場を設けていくことにより運営になるべく多くの意見が取り入れられるよう努めていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務予定表作成時に標記のような事が予定されている場合、見合う職員体制を組んでいる。又突発的な事柄については各職員に連絡調整を図り、支障が起きないように努めている。	○	今後も左記の件について継続して取り組んでいきたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員のユニット間の異動はこれまではほとんど行っていない。	○	今後も左記の件について継続して取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務中に個々の能力によりアドバイスを行っている。ただし研修の計画については特に費用面でのことからなかなか確保まで至っていないのが現状である。	○	学習会などの内部研修が実施されていない為、実施の方向で考えたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	構想自体はあるが取り組みについては実践されていない。	○	グループホーム事業所のみならず、他の介護サービス事業所とも機会があれば交流も随時とっていきたいと考えている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日頃の工作中的のストレスについて、話を聞くことは意識して行っている。また不定期にはあるが宴席などの機会も設け、解消にむけて努めている。	○	左記の事柄について継続していく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	仕事上の実績や評価は率直に認め、励まし、賞賛により自信や向上心につながるよう努めている。	○	具体的な方法として昇給ということも今後は検討していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人からの相談や不安については職員間で話し合い、ありのままのご本人を受け止めることが出来る様努めている。場合により関係機関との連絡調整は適宜実施している。	○	左記について継続していく。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族等の不安についても、話し合いの機会を設け利用上わからないこと、困っていることなど率直に伝えていただけるよう働きかけている。	○	左記について継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームでのサービス提供上、様々な条件や限界があることをまず理解していただき、ご本人のニーズがグループホームを含めたサービス事業所の中でどこが妥当なのか判断していただけるよう助言している。	○	左記について継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用を始めるに当り、ホーム内見学の手機をを設定していただいたり、ご本人に対しての当該職員の面談を実施するなどにより少しずつでも馴染みが出来る様努めている。	○	左記について今後も継続していくが、認知症の症状的なことから考えて納得した上で入居するケースが全てというわけではなく、ご家族の協力が不可欠な部分も当然あるということ随時認識していただくようにする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人との関係の構築という点に重きを置いている。あくまでも人生の先輩として尊敬の念を忘れず共感し合えるよう努めている。	○	認知症の症状の進行により不安感の増強、帰宅願望、せん妄等の行動が見られている入居者に対してややもすると逃避的な態度を示す職員が多い。そのような入居者に対していかに全員で取り組んでいくという姿勢を全職員が持つかが大きな課題だと考えている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族等にも時には協力体制を持っていただき、ご家族とホーム職員とが共同して支えあう関係作りに努めている。	○	特定の部分でご家族の協力を仰ぎたいことをその都度率直にお話しし、“預けっぱなし”という状態を少しでも解消していけるよう働きかけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族との関係が上手くいっていないケースがあるが、ホームからの情報などお伝えする中でいくらかでも関係修復につなげていただくよう配慮はしている。ただし立ち入ったことに関してはホーム側が介入すべきではないため内容により支援を回避せざるを得ないこともある。	○	左記について取り組んでいく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人からの意思表示により希望される場所への送迎やなじみの方との連絡の取次ぎなどを行っている。ただし連絡などについての了解が確認できない時は場合によりご遠慮いただくざるを得ないこともある	○	左記のとおり出来得る範囲内で支援していきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の時間を尊重した上で居室に孤立しないよう、又他者との交流が円滑に進むよう職員により、場の設定並びに声掛け等行っている。	○	左記について取り組んでいく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現時点では当該ケースはない。	○	これまでは該当するケースはないが、今後必要に応じて関係の継続は実施していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の生活の中での希望に対し、原則的に共同生活に支障がないこと、又は危険を伴わないことについては極力自由にご本人本位で行っていただいている。	○	スタッフに対し直接意見などを言えない入居者様も当然いると考えた場合、定期的に聞き取りやアンケート等も実施の方向で考えた。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	居室内に以前使用されていた家具などを持ち込んでいただき、安心・馴染みのある空間・生活を送っていただいている。一日通して、ホームでの強制した時間は設定しておらず、ご本人本位の時間となるよう対応させていただいている。	○	ユニット利用されている方々の認知症及び機能的な部分の重度化が進行している状態である。個々の取り組みに関しては以前に比べてスタッフが支援できる時間が少なくなっている感があるが、それでも何とか極端なサービス提供量の低下を招かないようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日、定時に血圧、体温、脈を計測し、日々の体調の変化をモニターしている。又プライバシーを尊重した上で居室内で過ごされている方に対しても安否確認と同時に健康状況等巡回により把握している。	○	日常の介護提供量が増加してきている中で、記録量(記録の必要性がある事柄)も間違いなく増加してきているが、日中の業務の中で記録に裂くことができる時間がそれほど多く確保できるわけではない為、様式については検討していく必要性はあると思える。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成に対し、ご家族、ご本人の要望を十分取り入れ、目標の位置づけを行い、日々関わりのある職員にて問題点や課題を解決できるよう支援を行っている。	○	正しい情報をスタッフ全員が共有し介護計画に細かく反映させていながら、より現実に近い介護計画の実現を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	最低でも半年に1度の更新が実現するよう作業は進めており、明らかな状態の変化が見受けられた場合においてはその都度見直しを行っている。	○	左記の通り実践していく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりに対してアセスメントを行いケアプランの見直しの資料としている。	○	介護記録に関連する書式は一応整備しているが、それぞれの関連づけが上手く出来ていない。様式の見直しを含め、スタッフ全体が把握できる形にしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホーム内のスペースについては他者の迷惑につながらない限り自由に活用していただくようにしている。	○	その都度の希望に応じていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	全体としての地域資源活用のお機会はそれなりに確保されている。	○	地域への働きかけは実際のところ不足している部分もあるが、特に当該町内会からの受け入れという部分が、開設後3年を迎える中で未だ確立されていない(事業所の存在自体に否定的な役員が存在している状態)。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医療サービスについては特別な事情がない限り自由に選択していただいている。他の介護サービス利用についての支援は特に例がない。	○	左記の内容で今後も継続していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケースがない。	○	ケースがあれば協働していく所存である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入居者様の日頃の状況を詳しく、職員及び訪問看護師などと相談し健康管理、医療活用の支援を行っている。	○	左記の考え方を継続していく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	個々により受診先が一定ではなく、それぞれに希望もある事から必ずしも認知症に詳しい医師に治療を受けられているとは限らない。	○	認知症の専門医というよりも認知症の高齢者に対して理解がある医師を是非確保していきたいと考えている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所で採用している看護資格職員又はホームに出入りしている訪問看護師と連絡調整を行い健康管理又は医療活用支援に役立てている。	○	左記について継続していく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご本人の回復状態と主治医の意見、又はホーム側の受け入れ体制の可否などといった条件から、医療機関側となるべく早期に退院が実現するよう情報交換、又は意見調整を行う。	○	ケースがあれば左記の方法で取り組んでいく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ケースがこれまでにない。	○	事業所として具体的な方針を示しているわけではなくあくまでも個々のケースによりホーム側としてどこまでのことが可能なのか判断し、その事がご家族にとって希望するに当る内容であるか判断していただいた中で最終的な終末期の対応としたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現時点では事例がないが、今後ケースが発生した場合に備え、訪問看護ステーションとの意見調整などは随時行っていきたいと考えている。	○	ケースがあれば左記の内容で執り行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	事業所間での情報提供のやり取りを密に実施し、ご本人の環境変化に伴うダメージを最小限にするよう配慮している。	○	事例があった場合は左記の方法で行う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ご本人の思いを否定する事無く受け入れ、又はその状況が問題があるかのような言動は慎むよう声掛け対応に心がける。	○	全ての職員が左記の方法で取り組んでいるわけではなく、現実的な話のやりとりでかえって入居者を混乱させてしまうケースが全くなわけではない。従って認知症に対するケアについて基本に立ち返ることを定期的に行っていく必要性を感じている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意見を押し付けず、入居者様に不安・不快感を与えないよう説明を行い、日々過ごしやすい環境整備に励んでいる。	○	左記の事を継続していく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様ひとりひとりがその人らしく過ごせるような生活環境づくりに心がける。精神面、身体面両面について良好な状態を維持できるよう配慮する。	○	入居者の意欲の低下が全体的に見受けられる。まずは課題の提供により、場面の設定を行い、あわせて良好な対人関係を構築しながら声掛けや介助により課題に取り組む意欲を持っていただくよう働きかけていくようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月にほぼ1度のペースで美容院に来所していただき、カットや顔そり等行っている。またご家族の希望されるお店へご家族又は場合によっては職員がお連れする事がある。	○	左記の事柄を継続していく。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材発注や献立については業者委託しており、必ずしも個人の好みに合った食事とはなっていない。調理に関心、又は意欲を示している方はごく限られた方しかおらず、特定の方々で習慣化して行っていることは食後の食器拭きである。	○	現時点での入居者様に関しては折に触れ出来そうな事柄をその都度お願いし行っていたくようにしていきたい。外食の機会も随時組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	特定の入居者様にはご家族、又は主治医などより禁止されている嗜好品があり、ご希望に沿って対応させていただいている。タバコは特に禁止とはなっていないが喫煙される方はいらっしゃらない。	○	左記の通り進めていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	失禁が多少あってもおむつ使用は極力避けたいと考えている。排泄誘導により失禁が軽減できる可能性がある方もいらっしゃるが、誘導そのものに拒否の姿勢を示される為おむつ(紙パンツ、尿パッド)使用がやむなしといった状態である。	○	オムツ使用に対してリスク(尿路感染、膀胱炎等の疾病)が伴うことを最近認識したところである。これまでである程度できると判断していた方に徐々にレベルの低下が見られ、失禁も目立ってきた。これに伴い排泄の声掛けが新たに必要となった(スタッフが認識した)方や汚染状況を定期的に確認する必要性のある方が認識でき介護計画に盛り込むことになっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	通院や職員の業務上の理由などといった人数上の問題により実施がかなわないことがやはりあるのが現状である。	○	職員数の確保により入浴の回数を確保すること。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	配慮している。	○	左記の事柄について今後も支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様によっては自分なりの過ごし方を送られている方ももちろんいらっしゃる。ゲーム的な場の設定など行うことはあるが『張り合い』『喜び』といった点においてどこまで感じていただけているかは把握できていない。	○	イベント事を現状より増やしていく必要があるがその為には事前の勤務表上での人員確保が必要である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	通院や何らかの外出の折、又は当初より買い物を目的として出かける機会は時々設定はしている。ただし各入居者の満足いく頻度となっているかどうかは不明である。	○	回数的には現状より増やしていくことは容易ではないと考える。ただしその都度の希望に対しては極力速やかに対応していくこととしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的とは言えないが、体制の許す限り希望に沿った形で支援している。	○	外出の支援には当然スタッフの同伴が伴うため、時事前の予定の組み入れが必要である。体制が許せば実施も可能ではあるがただし「その日の希望によって」と言うことに関しては必ずしも対応できるとは限らない。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員同伴による外出は行き先がある程度限定されてしまう。以外についてはご家族が対応されている。	○	回数や場所はある程度特定されているが、昨年よりも実施は増えた(外食会等)。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をご家族宅へかけたいとの希望がある方がいらっしゃり支援しているが他の方についての希望はない状態。	○	希望があれば随時支援していききたいと考えている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問については入居者様等に特段のご迷惑がかからない限り、特にお断りするケースはない。お茶を差し上げたり、ご挨拶など失礼のないよう配慮はしている。	○	左記の事を継続していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。ただ言葉掛けによる制止、禁止を時としてやむを得ず使用するケースがある。	○	行動を予知しての未然の防止や、さりげない言葉掛けによる問題の回避に努める。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中に関しては開放しているが夜間は施錠している。又早朝は入居者の精神状態を勘案し、早番職員出勤まで開錠できない事もある。	○	やむを得ず使用した際の来客者に対する告知を正しく行う必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中居室におられる方は不定期に巡回し安全確保に努めている。夜間は定時の巡回時間を設け、以外にも日中又は就寝時頃の状態から判断しながら適宜巡回は行っている。	○	左記のことを継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	所持品で管理上危険と思われる場合は、ご本人又はご家族に了解を頂き職員にて保管させていただいている。共有スペースの物品については使い勝手の事もあるので何でも収納という形にはしておらず、特に危険と思われるもののみ収納している。	○	左記の方法で対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットや事故報告の記録はその都度提出されており、事後のサービス提供に生かすための具体的な話し合いをその都度行うように義務付けした。又各ユニットにおける事案について、全体の会議を定例化し、その中で発表してもらいスタッフへの意識付けを図っている。	○	朝夕の申し送りの際にその都度発生する問題点については話し合いの機会を設けているが、全体の意見調整が必要と思われる際には都度会議を開催し方向性を定めている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	開設当時の職員は採用時に心臓マッサージや人口呼吸の方法について研修を受けているが、その後採用の職員については受けさせられていない。	○	講習を受けていない者の受講と既に受講した者の再受講を進めていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は実施しているが回数は少ない。	○	最低年2回の避難訓練の実施。火災を想定しての避難方法についての学習会等。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	生活面、又は健康面に変化のある入居者のご家族とはなるべく密に連絡を取り合い、そこから想定されるリスク並びにサービス提供上の限界等含め説明し理解いただいている。	○	グループホームにおけるサービス提供がどこまで可能なのかということをご家族に懇切丁寧に説明し、限界が現実的にある事を事あるごとにお伝えしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期又は状況により不定期に血圧、体温、脈のチェックを実施、また日頃の変化についても見逃さないよう観察に努めている。	○	左記について今後も継続していきたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の副作用について全員が周知しているとはいえない。ただし、受診時などにおいての主治医からの注意事項などについては特に忘れずに連絡するよう努めている。	○	入居者個々がどのような疾病がありどのような薬を服用しているのかを大雑把にでも把握し処方内容について変更がある度に職員全体へ周知を図る事を習慣化していきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	現在は服薬による調整が主となっており、運動などは支援することもあるが食事面での支援は食材発注が業者委託といったこともありなかなか実現できずにいる状況である。	○	ご本人の意向等も考慮し無理のない方法で運動する機会を設定していきたい。また水分摂取量の確保等も職員間での把握事項としていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	就寝前に一部の入居者に対して義歯洗浄の支援を行っているケースはあるが、その他の方々については支援できていないのが現状である。	○	ご自身である程度行えている方もいらっしゃり、どこで介入が必要と判断するかについては日々観察を重ねていく中で判断していきたいと考えている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態や習慣には必ずしも合わせられていない。食事摂取量や水分摂取量などは記録化はしている。	○	大雑把な食事や水分量の記録については今後も継続して行い、サービス提供の目安としていきたい。量やバランスについて全ての入居者に合わせることは難しく、機会を見ながら行事食や職員による献立作成にて柔軟に対応していきたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルは常備しているが、利用されるケースがないのが実情。食器の消毒や手洗い、うがいの励行など基本的な事柄については実践している。	○	学習会等の機会を設定し資料配布するなどしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は業者への委託となっているが、納品や使用の際に食材の痛み等については確認の上使用している。調理器具の衛生管理に関して、これまで特に食中毒等の問題が発生はしていないが随時管理が適切に実施されているか管理者において指導・監督するようにしている。	○	左記の方法にて継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	特に工夫しているわけではないが、花などを飾るなどして雰囲気作りには配慮している。	○	左記の方法にて継続していきたい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特に個々の入居者様にとって不快であったりする場合には配慮する考えはある。	○	その都度観察を継続し個々の入居者の方々が生活しやすい環境整備に努めていきたいと考えている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	特定の方の為に居場所作りを意図的に行ってはいない。一応その目的で用意した空間はある。	○	自室にいることを好む方はいらっしゃるが、意図的に他入居者との交流を持つ機会を設定していきたい。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際はなるべく馴染みのある家財道具をお持ちいただくようご家族にはお願いしている。その事が居心地良いことにつながっているかどうかは疑問である。	○	居室内の家財道具はほとんどがご家族に用意していただいているが居室内の生活が不都合を生じるようにはならぬようご家族には働きかけていきたい。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入替えや、汚臭の速やかな除去等その都度配慮している。	○	左記内容にて継続していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身の回りのそれぞれの方が出来る事に関しては、状況の許す限り見守り中心で行っていただいている。	○	全てが安全というわけではない為職員が見守りに努め安全に生活を送ることが出来るような配慮を欠かさぬようにしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	理解可能な事柄を職員が認識し、生活の中で混乱が生じることのないよう配慮している。	○	職員の事前の配慮が欠け、不安感に陥ってしまうことも多々ある状態である。従って一日の生活の流れの中で個々の入居者を継続して見守る姿勢を崩さないようにし、混乱や失敗などを未然に防止していくようにしていきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	日向ぼっこ、おやつなどで外回りの環境やベランダなどの設備など活用している。	○	左記の事を継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない ②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)